

2 事業概要

(1) 総括事項

本年度は、給水戸数は微増、給水人口は微減となりました。また、料金収入である年間有収水量は、前年度より減少しました。これは、少子高齢化やライフスタイルの変化、節水型製品の普及による影響があると考えられます。

事業収入では、料金収入は減少しましたが、給水申込納付金が増加しました。事業支出では、人件費等の削減に努めましたが、減価償却費や資産減耗費等が増加し、事業収支については、純損失となりました。

また、施設改良費につきましては、水道施設整備を推進するため導・配水管の布設替工事等を実施しました。

(2) 業務の状況

本年度の年間給水量は7,714,054m³で、前年度に比べ23,772m³の減少となりました。

一方、有収水量は7,342,698m³で、前年度に比べ84,442m³の減少となり、有収率につきましては、前年度に比べ0.82%減の95.19%となりました。

また、北千葉広域水道企業団からの受水量は3,522,306m³で、総給水量に占める割合は45.66%となりました。

事 項	平成25年度	平成24年度	前年度との差
給水戸数 (戸)	38,399	38,226	173
給水人口 (人)	78,430	78,724	△ 294
年間給水量 (m ³)	7,714,054	7,737,826	△ 23,772
1日最大給水量 (m ³)	24,752	24,382	370
有収水量 (m ³)	7,342,698	7,427,140	△ 84,442
有 収 率 (%)	95.19	95.98	△ 0.79
北千葉広域水道企業団からの受水量(m ³)	3,522,306	3,578,433	△ 56,127
(給水量に占める割合%)	(45.66)	(46.25)	(△ 0.59)

(3) 経理の状況

収益的収支については、事業収益1,482,084,904円に対し、事業費用が1,527,887,933円で差引き45,803,029円の純損失となりました。

収支の内訳は、事業収益では、営業収益1,315,031,197円、営業外収益165,109,032円で、主なものとしては、給水収益1,210,761,941円、一般会計負担金25,278,000円、給水申込納付金158,940,000円などです。

事業費用では、営業費用1,386,129,972円、営業外費用96,463,010円で、主なものとしては、減価償却費503,580,463円、受水費328,573,560円、企業債支払利息90,020,387円などとなっています。

資本的収支については、収入額207,175,490円に対し、支出額は、626,664,363円となり、収入額の主なものとしては、企業債161,000,000円、一般会計負担金20,345,000円、水源費負担金14,175,000円です。また、支出額の主なものは施設改良費476,700,744円、企業債償還金148,444,701円などとなっています。

収入額が支出額に不足する額 419,488,873円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 19,411,456円、過年度分損益勘定留保資金400,077,417円で補てんしました。

(単位：円)

		平成25年度	平成24年度
収益的収支	事業収益	1,482,084,904	1,461,808,605
	事業費用	1,527,887,933	1,451,884,601
	純利益	△ 45,803,029	9,924,004
資本的収支	収入	207,175,490	379,562,750
	支出	626,664,363	912,741,556
	不足額	419,488,873	533,178,806

(4) 石綿管更新事業

【事業の目的】

- 耐震性の向上を図り、給水を安定させる。
- 漏水を防止し、維持管理費の節減を図る。
- 安全で良質な水を供給する。

【事業の経緯と現況】

本事業は、厚生労働省主導の下、水道管路近代化事業の一環として、目標年度を平成25年度とする石綿管更新事業を平成2年度から全国的に実施されることに伴い、本市でも実施に至りました。

本市水道事業では、事業目的を達成するため、計画的に水道部単独の布設替工事を実施すると同時に他事業の水道管移設や切廻し依頼による布設替工事も行ってきたところです。

その結果、平成3年度末の石綿管布設残存延長144.7km（石綿管割合73.60%）であったものが、平成25年度当初には2,880mを残すのみとなり、本年度もこれを全て実施し、これをもちまして更新事業が終了しました。